



自然科学書協会 会報

NSPA JAPAN

THE NATURAL SCIENCE PUBLISHERS' ASSOCIATION OF JAPAN



2025 年 11 月 10 日 No.4
(通算 113 号)

目 次

1. 新役員紹介	2
2. 各委員長のご挨拶と抱負	5
3. 出版平和堂第 57 回出版功労者顕彰会 報告 (広報委員会)	8
4. 出版・印刷人合同勉強会 案内	9
5. 第 75 期 第 1 回研修会 報告 (研修委員会)	10
6. 出版クラブ 3 階ライブラリー「自然科学書協会展」 報告	12
(和田 功：日本出版クラブ 事務局長)	
7. 事務局だより	13
8. 編集後記	14



発行人：池田 和博 / 編集：広報委員会

一般社団法人 自然科学書協会

<https://www.nspa.or.jp/>

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-101 神保町 101 ビル 3 階

TEL : 03-5577-6301



◆ 1. 新役員紹介 ◆

● 藤実 正太 理事 (診断と治療社)

この度、理事ならびに著作・出版権委員会の副委員長を拝命いたしました藤実正太と申します。数年前、前社長である藤実彰一の後任として、診断と治療社の代表に就任いたしました。入社前は弁護士をしており、訴訟や契約業務を中心に、幅広い法務分野に携わってまいりました。

出版業界は現在、情報の流通形態の変化やデジタル化の進展などにより、これまでにない課題に直面しているように感じております。紙媒体の売上減少、海賊版の拡散、AI によるコンテンツ生成など、従来の枠組みだけでは十分に対応しきれない状況も見受けられます。

こうしたなか、情報へのアクセスが容易になる一方で、著作物に対する適正な対価の意識が希薄になりつつあるようにも感じられます。そのような傾向が進めば、出版社の継続的な活動が難しくなり、当協会の会員社による専門書の刊行にも影響が及ぶ可能性があります。結果として、自然科学分野の発展や研究基盤に少なからず影響を与えることが懸念されます。

今後は、会員の皆様が安心して出版活動に取り組めるよう、適切な著作権処理に向けた環境整備や情報提供、著作権に関する啓発活動などに努めてまいりたいと考えております。これまでの法務経験を活かしつつ、皆様のお力添えをいただきながら、微力ながらもお役に立てるよう誠心誠意取り組んでまいります。

何卒、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



● 鈴木 幹太 理事 (南山堂)

この度の役員改選で2期ぶりに理事に就任し、以前の理事就任時と同じく、販売・出展委員会の副委員長を仰せつかることになりました。経験豊富な吉野委員長のもと、委員の方々のお力を借りながら、微力ではありますが委員会活動に貢献できるよう尽力してまいりる所存です。

販売・出展委員会の主な活動は書店での自然科学書フェアの開催となります。会員社発行物の売上を伸ばすこともフェア開催の目的の一つではありますが、協会および協会会員社の認知度を上げることに大きな意義があります。会員社1社だけでは開催できないような立地でのフェアや都市部における大型書店での大規模なフェアなどさまざまな検討を重ねつつ、売上金額だけにとらわれずに、その開催意義も踏まえてフェアの開催を実現していければ、と考えております。

会員各社の皆様には、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



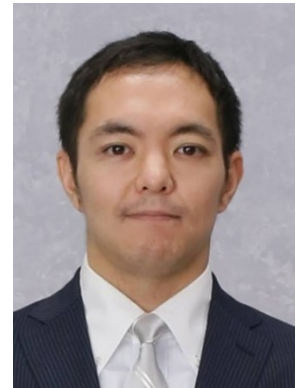
● 及川 雅司 理事 (養賢堂)

この度の役員改選で理事に就任し、広報委員会の副委員長を拝命いたしました。前任の監事としての務めに続き、協会の活動により深く関わる機会をいただいたことに、身の引き締まる思いです。

私は出版業界に携わる前は、メーカーの技術者として研究開発に従事しておりました。科学技術の現場で培った視点と、ものづくりに対する誠実さは、出版という知の伝達の営みにおいても活かせると信じています。

監事としては、協会運営の健全性と透明性の確保に努めてまいりました。今後は理事として、また、広報委員会としては、自然科学書協会の活動内容や取り組みを、会員の皆様をはじめとする関係者にわかりやすく伝えることを主眼に、情報発信を行っていくことが求められていると考えております。出版を取り巻く環境が大きく変化するなかで、協会の存在意義や活動の輪郭を明確に示すことは、今後ますます重要になると感じています。

理事としては、現場の声を丁寧に取り上げながら、協会の活動がより開かれたものとなるよう尽力してまいります。微力ではありますが、誠実に、そして着実に歩みを進めてまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



● 曾根 良介 監事 (化学同人)

この度、20 年にわたり務めてまいりました理事を卒業し監事の役務を拝命いたしました。

監事は、財務会計だけではなく、法人の経営全体が適切かつ効率的に機能しているかについて監査することが求められています。出版業界に身を置いてからの 40 余年、思い返せば山あり谷ありの出版活動だったと思います。これからはより一層精進し、これまでの経験も活かしつつ、広い視野をもって、池田理事長のリーダーシップのもと、監事として運営に携わってまいります。



● 飯塚 尚彦 監事 (産業図書)

この度監事に就任した飯塚でございます。

自然科学書協会はまもなく創立 80 周年を迎えますが、当協会が永きにわたって地道な活動を続けていくことができた背景には、歴代監事のご貢献が少なからずありました。先達の意志を継ぎ、当協会発展のため微力ながらお手伝いをさせていただく所存でございます。

さて、監事の定数は定款第 13 条で 3 名以内と定められておりますが、私はかねがねこの 3 名のうちの 1 名には、将来を嘱望する若手の人材を登用すべきと考えてきました。これは、監事はその立場上、事業を俯瞰し、時には理事会から適切な距離を保つことも必要だからです。その点、しがらみがまだ少ない若手ならそれが比較的容易に可能だと思います。もちろん、若手にすれば、いきなり距離をおいて俯瞰しろと言われても酷な要求に違いありませんが、他者から期待されることで人は驚くほど成長するのも事実です。特に、社内にあっても将来を嘱望される人材であればこそ、若いうちに社外で少し重めの職責を負い、そこで揉まれた経験が将来本業で生きると思います。

一方、組織における監査機能の担保には人材の多様性が不可欠です。具体的には、新人が持つ新鮮な視点、その組織に固有の事情を知りうるベテランの経験知、さらには異業種に身を置く者からの客観的な意見具申などがそれにあたると思います。

では、自分は何から手をつけるべきか。月並みですが、まずは初心に帰って監事の役割と自分の立ち位置を確認することから始めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



● 第 75 期・76 期役員一覧

https://www.nspa.or.jp/aboutus/board_member/

● 第 75 期・76 期委員会等役務分担表

<https://www.nspa.or.jp/aboutus/division/>

(新理事・新監事の紹介は社名 50 音順です)

◆ 2. 各委員長のご挨拶と抱負 ◆

1) 販売・出展委員会 (委員長 吉野 和浩：裳華房)

この度、販売・出展委員長を拝命いたしました。何分にも浅学非才のため、行き届かない点が多々あるかと思いますが、鈴木副委員長（南山堂）ならびに 13 名の委員の方々のお力をお借りして責務を果たしてまいりたいと思います。

当委員会の事業内容は「国内での展示・販売フェアを実施する」と掲げており、国内書店店頭における「自然科学書フェア」の開催を柱とし、今までの経験を活かし、さらなる自然科学書の普及および当協会の認知度向上に取り組んでまいります。

会員各社様および関係各位におかれましては、引き続きご理解・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



2) 著作・出版権委員会 (委員長 筑紫 和男：建帛社)

第 73 期・74 期に引き続き著作・出版権委員長を仰せつかりました。近年の社会情勢に合わせて拡大している著作権関連団体の活動に対応し、私と同じく前期より副委員長に就任した小立健太理事（南江堂）に留任いただくとともに、新たにもう一名、藤実正太理事（診断と治療社）を副委員長に迎え新体制となりました。また、浅学の私より経験豊富で心強い各社を代表する 16 名の委員の方々のお力をお借りして、気持ち新たに取り組んでまいり所存です。

当委員会では、事業計画に掲げている「著作権の普及と啓発」に基づき、① 著作権諸問題への検討・対応と会員社からの相談事案への対応、② 関連団体への参画を主に行ってまいります。

①について、前期には著作権法第 35 条に関連して高等教育機関における採用品教科書の適正な利用を求める啓発文書を発信しました。引き続き専門書出版社により組織されている当協会の立場を踏まえて、発信できることを検討してまいりたく存じます。また、継続案件となっている獣医系大学における著作権侵害が疑われる問題を扱ってまいります。

②について、出版者著作権管理機構（JCOPY）、授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）の構成団体である出版教育著作権協議会、図書館等公衆送信補償金管理協会（SARLIB）の活動に参画し専門書出版社の立場を表明するとともに、その活動内容や動向を会員社へ広く周知していくように努めてまいります。

引き続き、会員各社皆様のご指導を賜りますようお願い申し上げます。



3) 研修委員会 (委員長 片岡 一成：恒星社厚生閣)

この度、研修委員長を拝命いたしました。これまでの4年間、委員長を務めてまいりましたが、その責務の重さを深く胸に刻んでおります。

昨今の出版業界は、生成 AI の急速な台頭という新たな波に直面し、創造性や著作権の根幹に関わる問いを改めて投げかけられています。経営環境の変化に加え、デジタル化のうねりは、専門書出版社である私たちが乗り越えるべき喫緊の課題として、その激しさを増すばかりです。

研修委員会では、これらの課題に対し、会員出版社の皆様と共通認識を持ち、迫りくる時代の変化に後れをとらぬよう、知見の共有と自由闊達な意見交換を促進する場を提供できるよう、誠心誠意努めてまいります。

長年にわたり培ってきた会員各社のつながりは、新たな時代を生き抜くための最も貴重な財産であると確信しております。このつながりをさらに発展させるため、金原俊副委員長 (医学書院) をはじめ、研修委員の皆様のご協力をいただきつつ、会員各社の「知」を結集してまいります。

業界全体の強靱性と持続的な発展に貢献できるよう、微力ではございますが、尽力してまいります。何卒、変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。



4) 広報委員会 (委員長 牛来 真也：コロナ社)

この度、広報委員長を仰せつかりました。前期からの留任となりますが、新たな気持ちで職責を全うしたいと思います。今回は今期から理事に就任されました及川副委員長のお力添えを賜ることになりました。そのほか個性的で有識な6名の委員とともに2年間運営してまいりたいと思います。

さて、当委員会では協会の活動内容や存在意義を今まで以上に会員各社はもちろんのこと、業界全体にも広く告知をしていく使命があります。そういう観点から以下の3点が当委員会の主な活動内容となります。

- 会報の発行 (1月、4月、7月、10月の年4回)
- ホームページの情報更新
- 業界関係メディアへの協会活動のPR

会報につきましては、読みやすさや内容にまだまだ改善の余地があると思います。この点は委員会で検討し、会員各社にご満足いただける会報になるよう努力してまいります。

また協会のホームページの情報更新につきましても、迅速かつ有益な情報を見やすい形で発信してまいります。

まだまだ当協会に関する業界内の認知度は低いいため、対外的なPR活動はインターネットや業界紙などを通じて、積極的に行っていく所存です。

引き続き、皆様方のご理解とご協力ならびにご支援を賜りますようお願い申し上げます。



5) 総務委員会 (委員長 白石 泰夫：医歯薬出版)

第 75 期・76 期の総務委員長を仰せつかりました医歯薬出版の白石と申します。何卒よろしくお願い申し上げます。

総務委員会の役割は、協会運営を裏方として支えることに尽きると考えています。会員各社、理事・監事各位、事務局のご協力のもと、理事会・総会・各種イベントの開催、議事録作成、各種届出書類の作成、スケジュール管理などについて支障なく実行してまいります。

2026 年は、1946 年に創立した自然科学書協会が 80 周年を迎えることとなり、当期から来期にかけて、80 周年記念事業へのさまざまな取り組みが行われる予定です。すでに祝賀会小委員会と記念史小委員会が立ち上がり検討が進んでいますが、総務委員会としても関連する事案について積極的な支援・協力を行ってまいります。

また、森田副委員長（緑書房）と事務局の柳橋氏のご協力を仰ぎながら、事務局実務のさらなる省力化・スリム化を進め、より一層スムーズな形での協会運営が可能になるよう尽力する所存です。引き続きご指導ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。



● 第 75 期・76 期委員会委員一覧表

<https://www.nspa.or.jp/aboutus/committee/>



◆ 3. 出版平和堂第 57 回出版功労者顕彰会 報告 ◆

今年は 10 月 27 日（月）の開催となりました。前日、前々日と東京は冷たい雨天でしたので箱根はさぞ寒いことを覚悟していましたが穏やかな秋晴れとなり、だいぶ気温も高くなりました。まだ紅葉シーズンではなかったのですが、芦ノ湖は多くの観光客で賑わっていました。

今回は 4 名の故人の方が新顕彰者となりました。

新顕彰者の名簿はこちら：

<https://shuppan-club.jp/wp/wp-content/uploads/2025/09/%E7%AC%AC57%E5%9B%9E%E5%87%BA%E7%89%88%E5%B9%B3%E5%92%8C%E5%A0%82%E6%96%B0%E9%A1%95%E5%BD%B0%E8%80%85%E5%90%8D%E7%B0%BF.pdf>

今回は自然科学書協会の会員社からはおりませんでした。故人お一人お一人には改めて謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

第 1 部の顕彰会は出版平和堂（神奈川県箱根町）で維持団体の代表者（当協会もその一つ。池田理事長が参加）によるご挨拶・新顕彰者名の奉告、献詞がありました。また参加者全員による黙祷、献花も行われました。

第 2 部は芦ノ湖湖畔にある箱根ホテルへと移動をし、顕彰者の方々への敬意と感謝の念を込めて献杯をし、ご遺族・関係者の方々との昼食会となりました。式典は滞りなく 14 時に閉会となりました。

（広報委員会 牛来真也）



献花をする池田理事長（左側）

◆ 4. 出版・印刷人合同勉強会 案内 ◆

出版社と印刷会社の交流事業として昨年度に引き続き「出版・印刷人合同勉強会」を下記のとおり開催いたします。

記

1. 日 時：2025 年 11 月 14 日（金）、13:00～15:00
2. 場 所：日本印刷会館 2F 会議室
中央区新富 1-16-8（TEL：03-3551-5011）
3. 内 容：出版社のための先進的 AI 活用最前線—AI と人間の共創—
4. 講 師：デジタルハリウッド大学大学院 教授 橋本大也 氏
5. 参加方法：会場または Zoom（人数制限なし）
6. 参 加 費：無料



◆ 5. 第 75 期 第 1 回研修会 報告 ◆

1. 研修会開催の背景と概要

自然科学書協会と出版梓会は、2024 年 11 月 1 日に施行された「特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律」(通称:フリーランス新法)への適切な対応が急務であるとの認識のもと、両会会員社を対象とした合同研修会「フリーランス新法説明会」を 2025 年 8 月 20 日(水)に開催いたしました。

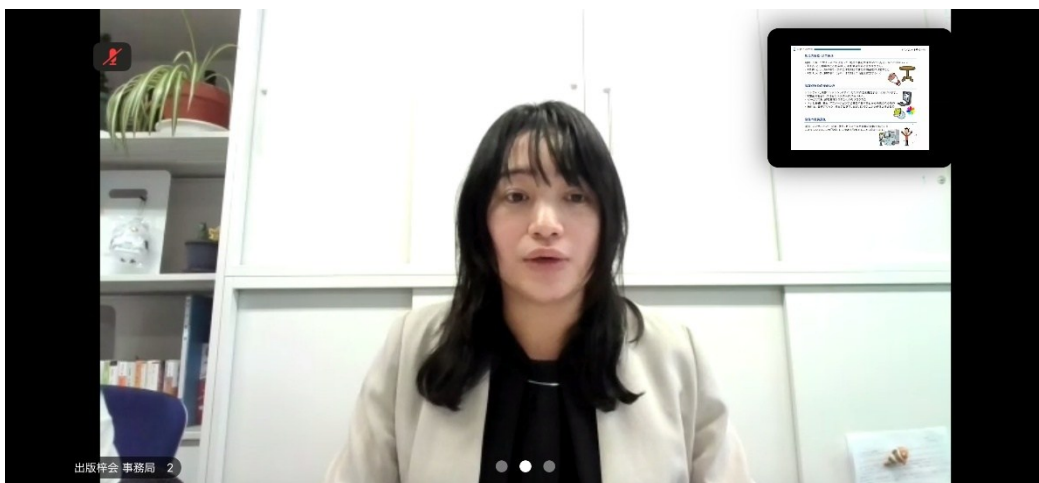
出版業界にとっては、ライター、編集者、デザイナー、校正者などのフリーランスとの業務委託契約が不可欠であり、本法律は業界の商慣習に広範な影響を及ぼしています。本研修会は、公正取引委員会 事務総局 経済取引局 取引部 取引企画課 フリーランス取引適正化室 係長(講演会当時) 佐藤香純氏を講師にお招きし、本法律の趣旨と出版実務に照らした具体的な解釈を中心に、コンプライアンス体制構築および検討を支援することを目的としました。

2. 開催の実態と参加状況

本研修会は、8 月 20 日(水) 15 時 00 分から、途中 5 分間の休憩を挟み、当初予定を延長する形で約 2 時間にわたり実施されました。開催形式はリモート講演会(クロード形式)で、出版梓会事務所をお借りし、講師をお招きしました。当日の参加者数は、両会併せて 128 名(内訳:出版梓会 72 名、自然科学書協会 55 名、両会会員 1 名)となりました。社員複数名で視聴された会員社もあり、この法律に対する会員社の高い関心がうかがえました。

3. 講演内容の詳細

講演前半では、本法律の基本的な考え方について詳細な解説がありました。特に、本法律が資本金の規模にかかわらず発注者となるすべての事業者に適用される点、そして発注者が遵守すべき具体的な義務(取引条件の明示義務、期日における報酬支払義務など)と禁止行為(受領拒否、不当な給付内容の変更・やり直しなど)について、ガイドラインに基づいた解説が行われました。

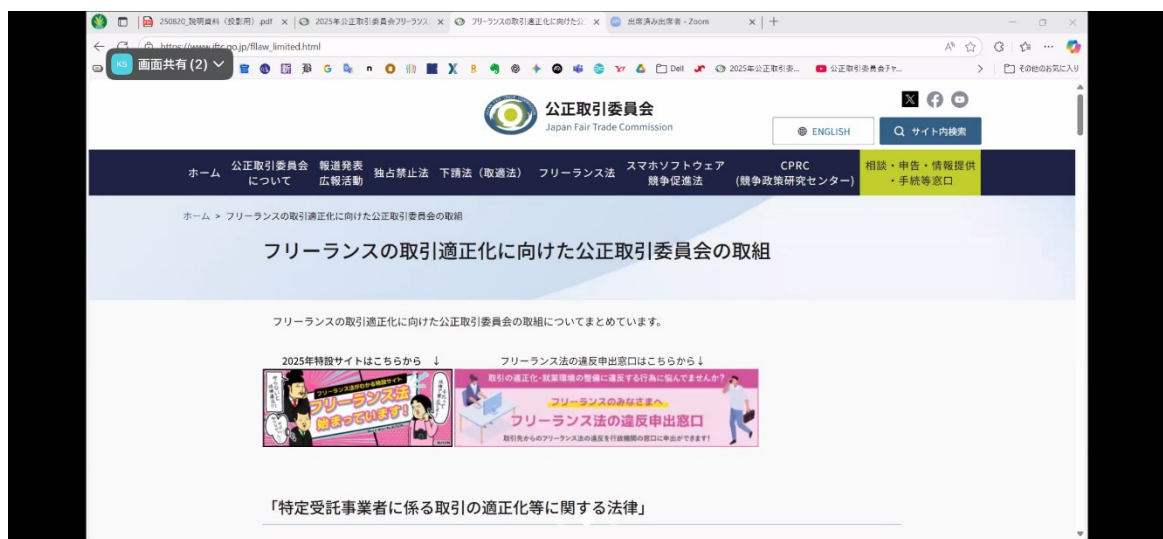


講師の佐藤香純氏

講演後半では、事前に会員各社から多数お寄せいただいたフリーランス法に関する具体的な質問に対し、佐藤氏より回答をいただきました。出版社における公正取引委員会からの勧告事例なども示され、従来の商慣習のいくつかが法令に違反する可能性があることを再認識させられる、実務的な内容となりました。

4. 講演後のフォローアップ体制

当日参加できなかった会員社向けに、研修会終了後、YouTube にて両会会員社限定で動画配信によるフォローアップを実施いたしました。URL は 8 月 28 日に一斉メールにて会員各社に送信済みです。ご案内の際には、動画と併せて、以下の公正取引委員会作成資料「説明会配布資料」「特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律の考え方（解釈ガイドライン）」も提供いたしました。



フリーランスの取引適正化に向けた公正取引委員会の取組の紹介

https://www.jftc.go.jp/flaw_limited.html

講演後には、参加者から、当該法の解釈について、「著者との契約」のように出版業界独自の商慣習と相いれない部分に関するご意見や再度のご質問が寄せられるなどして、一定の反応を頂戴いたしました。

今後の業界の取り組みとしましては、法律施行の背景にある、立場の弱いフリーランスの方々の権利保護と労働環境の改善という原則について、出版業界の古い慣習を改善する努力が求められているという認識を新たにしました。また、「著者との契約」のように業界の深く根ざした商慣習に関して、業界全体として本法をいかに解釈し、業務を継続発展させていくかについて、統一的な議論と認識の共有が不可欠で、出版業界にとって重要な課題の一つとして認識されたものと考えます。

(研修委員長 片岡 一成：恒星社厚生閣)

◆ 6. 出版クラブビル 3 階ライブラリー「自然科学書協会展」報告 ◆

自然科学書はとても奥が深い

一般財団法人日本出版クラブ
事務局長 和田 功

「自然科学書協会展—未来への架け橋 知識の泉—」が、出版クラブビル 3 階ライブラリーにて、第 1 弾=6 月 27 日（金）～7 月 18 日（金）、第 2 弾=9 月 1 日（月）～9 月 18 日（木）の 2 回にわたって開催され、来場者数は 2 回合わせてのべ 600 名となりました。ご出品いただいた各社様におかれましては心よりお礼を申し上げます。

2018 年 8 月、本の街＝神田神保町に出版クラブビルは竣工しました。クラブビルの顔であるライブラリーには、吹き抜け天井高 8 メートルのスペースに、ご寄贈いただいた「未来に残したい本」約 8,000 冊が収蔵されています。オープン以来 30 回以上に及ぶ企画展では「造本装幀コンクール展（日本書籍出版協会）」「世界の子どもの本展（JBBY）」「日本雑誌広告賞展」「梓会出版文化賞展」「国語辞典のひみつ展」などの定例展示のほか、「コロナ禍と読書展」「未来に残したい忘れたくない本展」「装幀家＝菊地信義回顧展」「ジェンダーを知るはじめての一步展」「大阪書林御文庫講 創立三百年記念展」なども開催し、各方面から注目されるに至っています。今回「自然科学書協会展」が開催されるにあたり、30 以上の協会加盟社の方々から自社刊行の図書をお預かりしました。一度の展示でこれだけたくさんの方々にご協力いただいたことはクラブライブラリーでも前例がなく、改めて貴協会の結束力の強さを認識した次第です。

昨年末に学士会館が休館して以来、クラブホール・会議室は多くの学会関係者にもご利用いただくようになりました。ちょうど良いタイミングで「自然科学書協会展」展示期間中、本を手に取りご覧になっている方もたくさんいらっしゃいました。また近所の天体好きの中学生がほぼ毎日ライブラリーに通い、『天文手帳 2025』を何度も何度も読み返していたのも印象的でした。

コロナ禍の影響もありオープン当初より来客数が伸び悩んでいたホール・会議室も、ライブラリーの活性化とともに、現在ではたくさんの方々にご利用いただくようになりました。そして、ライブラリーをご存知ないホール・会議室ご利用のお客様も、ライブラリーにも立ち寄られる相乗効果も生まれています。

近い将来、ライブラリーに展示されているすべての本がゆっくり読めるスペースを作ろうと計画しています。出版クラブは皆様の「クラブ」です。神楽坂の旧会館がそうであったように、クラブビルが皆様の交流の場となることを願ってやみません。



展示風景

◆ 7. 事務局だより ◆

●理事会

- ・ 8 月 6 日 (水) / 文化産業信用組合 会議室
- ・ 9 月 18 日 (木) / 文化産業信用組合 会議室
- ・ 10 月 16 日 (木) / 文化産業信用組合 会議室

●正副理事長会議

- ・ 7 月 24 日 (木) / 丸善出版株式会社 会議室

●委員会

- ・ 8 月 28 日 (木) 80 周年記念史小委員会 / 文化産業信用組合 会議室
- ・ 9 月 17 日 (水) 80 周年祝賀会小委員会 / 建帛社 会議室
- ・ 10 月 9 日 (木) 広報委員会 / 文化産業信用組合 会議室

●届出事項変更届

<代表者・当会代表者の変更>

- ・ 株式会社 誠文堂新光社 旧代表者：小川 雄一 新代表者：中川 慎司
- ・ 克誠堂出版株式会社 旧代表者：今井 良 新代表者：今井 俊行

■7 月 24 日 (木)「出版平和堂委員会」(日本出版クラブホール・会議室)に村上副理事長が出席しました。

■年末会員懇親会

12 月 4 日 (木) 18 時より如水会館にて開催を予定しております。

会員社の代表者、委員会委員の方々ならびに関連団体代表者の皆様にご参集いただき一年の締めくくりと、相互交流を深める一夕にさせていただきたいと思っております。多くの方のご出席をお待ちしております。

■訃報

株式会社 誠文堂新光社 代表取締役社長 小川 雄一様 令和 7 年 9 月 14 日逝去(享年 57 歳)

克誠堂出版株式会社 代表取締役社長 今井 良様 令和 7 年 9 月 12 日逝去(享年 72 歳)

謹んでお悔やみを申し上げます。

◆ 8. 編集後記 ◆

第 75 期における最初の会報はいかがでしたでしょうか？

第 75 期・76 期を迎え、各委員会の抱負や活動計画が示され、協会のさらなる発展に向けた意気込みを感じていただけたかと思います。また、80 周年記念事業に向けた準備も本格化しており、協会全体での結束力が試される時期でもあります。

本号では、出版業界が直面する課題や、出版クラブビルで行われた「自然科学書協会展」といった新たな取り組みについても取り上げられています。特に生成 AI やフリーランス新法への対応など、変化の激しい時代において、会員社の皆様とともに知恵を出し合い、未来を切り拓いていく必要性を改めて感じます。

広報委員会としては、引き続き会報やホームページを通じて有益な情報を発信し、会員社の皆様にとって役立つ内容をお届けできるよう努めてまいります。ご意見やご要望がございましたら、ぜひお寄せください。

次号もどうぞお楽しみに！

(広報副委員長 及川 雅司：養賢堂)

● 第 75・76 期広報委員会 ●

委員長：牛来真也（コロナ社）

副委員長：及川雅司（養賢堂）

委員：原 純子（オーム社）

加藤義之（建帛社）

高田由紀子（恒星社厚生閣）

新井明良（コロナ社）

飯岡千恵子（丸善出版）

中島健介（養賢堂）

